



のまど間ホームステイ体験者  
フィリップさん

私の名前はキランガ・フィリップです。のまど間を拠点に大山町で田舎暮らしを体験しました。滞在中、地域の皆さんから、ケニアはどんな国なの？と尋ねられることが多かったので、ここではそのお話をまとめてご紹介します。

## 「ケニアという国」

ケニアはアフリカ大陸の東部の海岸沿いに位置します。日本には四季がありますが、ケニアには二季しかありません。暑くて湿度の高い季節と、暑くて乾燥した季節だけです。気温は、年間を通じて15℃～30℃くらいです。(ナイロビは標高1,700mの高さに位置する都市で、だいたい大山の山頂と同じ高さに現在約400万人が住んでいます。) スワヒリ語が中心言語ですが、公用語として英語も話します。人種は、ほとんどが黒人のアフリカ人で、次にヨーロッパ人とケニア人のハーフ、インド人とケニア人のハーフが多いです。アフリカ系ケニア人は42部族から成り立っています。42の部族が仲良く生活するためには、自分と違う部族の人たちを理解しようと努めること、違いを否定せず認め合うことが大事です。

私はケニアの首都ナイロビで生まれ、17歳まで暮らしました。幸運なことに裕福な家庭で育ちました。父親の年収は約300万円。ケニアではとても大きな金額です。大きな家に住み、食事・洗濯・掃除・買い物などをする24時間専属のお手伝いさんが住み込みで働いていました。比較までに他の職業の年収目安をいうと、田舎の公務員は6万円、大都市の家政婦は12万円、大都市の公務員は25万円、そして、ケニアの国会議員の年収はなんと1,700万円です。大きな差があります。

このように、ケニアでは貧富の差が大きな問題になっています。大きな家に住み、子どもたちを良い学校に通わせ、高級車に乗っている人たちがいる一方で、毎日の食事ができず、靴すらない貧しい人たちがいます。スラムの泥小屋に住み、水道や電気無しの生活です。ときには生活のために泥棒となり、裕福な人たちからものを盗みます。

私の近所で本当にあった話なのですが、砂糖や塩などの少量の調味料を分けてほしいとやって来た人がいました。それならと分けてあげると、次の日もやって来て、今度は小麦粉がほしいと。そして、自分の家族にも食材を分けてほしいと。だ



んだん欲しがる食材の種類や量も多くなりました。断ると、もらえないのなら「殺す」と脅されました。そして断ったその日の晩、そのご近所さんは寝ている間に家族全員が殺されました。スラムに住んでいる人がみんな悪い人というわけではありません。彼らも家族があり、家族の食料を確保し、生活費を稼がなければなりません。貧困から抜け出すために働きたくても、働き口を見つけることはとても難しいのです。

私は、このように貧しい人々を身近に見てきた経験から、「何事も当然のことだと思っていはいけないこと、自分ができること・持っているもの全てに感謝をすべきだということ」を学びました。生まれた家がたまたま裕福であった、貧乏であった。それだけで、ほとんどその人の人生が決まってしまう。努力した人に平等にチャンスが与えられる社会になってほしいと切に思います。このことは、ぜひ大山町の子どもたちにも知ってほしいと思います。

私の今後は鳥取県内で就農する予定です。困難がたくさん待ち構えているのは容易に想像できませんが、精いっぱい努力したいと思います。今回、大山町では農家さんを中心に沢山の方にお世話になりました。近い将来にまた訪れて、その時には上達しているはずの日本語でお話したいと思います。今回お会いしていない方も出会ったら気軽に声をかけてくださいね。(日本語訳・小倉典子)